

番楽フェスティバルの開催に向けて

番楽交流会開催

根子番楽、仙道番楽の競演

目的・期待される効果

根子番楽を伝え受け継いでいくために、まず阿仁の人に根子番楽を知っていただく必要がある。そして番楽が文化であり、娯楽であることの認識を深めてもらうために、演目が似通う羽後町の仙道番楽と競演することにより、その違いや奥の深さ、そして失われた演目の復活または技術の向上を期待したい。また、番楽を理解することにより、その魅力を感じ後継者育成につながることを期待したい。

内 容

今年ふるさと水と土現地見学会に参加した羽後町の仙道番楽と根子番楽が競演して、番楽の魅力を伝えるとともに、阿仁の食文化を堪能していただく。

- 日 時 平成18年2月25日（土）午前11時～午後3時
- 会 場 北秋田市阿仁「ふるさと文化センター」
- 参 加 費 1,000円

根子番楽

由来・特徴

番楽の始まった時期は定かでないが、起源は二つあり源義経の家臣の末裔が移り住んだ説と平家の家臣が信州飯田から入って伝えた説。番楽は山岳信仰を修行した山伏によって伝えられてきた神楽の一種で根子番楽は古式をよく今に残している舞楽として、特に謡の内容が優れていること、舞の形式が能の先駆けをなす幸若舞以前のものとして賞賛されている。



根子番楽の現状

昭和33年から根子番楽保存会が組織され、番楽の保存・伝承に努めてきたが、集落の人だけでは継承することが無理な状況から他の集落の方の参加が必要になってくる。

また、昭和39年から小学校の課外活動で伝承活動が行われている。

仙道番楽

由 来

仙道番楽の起源には二説ある。一説は慶長年間末期京都から三藏院坊と称する修験者が落ち延びてきて仙道に宝永山を開いて住し、山伏神楽を普及した説。

もう一説は400年ほど前西鳥海山に籠もっていた山伏行者が降雪期に下山し、村々を悪病退散、家内安全等を祈って獅子舞を舞つたり、夜には人々を集め番楽舞を演じたのが村人に伝わりこれが起源とする説。神楽舞は太鼓、笛、鉦に合わせて舞い、夜行われたためか「仙道晩楽」と書かれたと見られる。



隠されたルーツ

地元仙道地区では武田姓が多い、この人たちは戦国武将の武田方の落ち武者の末裔で、その落ち武者たちが番楽を伝えたと実しやかに言い伝えている。



三番叟



鶏 舞



根子番楽と仙道番楽の類似点

・演目が似通っている。(一緒)

根子番楽

かつては表12番、裏8番の20番あったが、現在残っているのが、

- 1番. 口 上 6番. 曽我兄弟
- 2番. 露払い 7番. 作 祭
- 3番. 翁 舞 8番. 鞍 馬
- 4番. 三番叟 9番. 信夫太郎
- 5番. 敦 盛 10番. 鐘 卷

仙道番楽

仙道番楽は、1番より12番まであって、1番より6番までを表6番と称し、7番より12番までを裏6番と称している。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1番. 御獅子之舞 | 7番. 位頭御神楽 |
| 2番. 御上旨之舞 | 8番. 機織姫之舞 |
| 3番. 三番叟 | 9番. 五条ヶ橋(牛若弁慶) |
| 4番. 典掌御神楽 | 10番. 花車之舞(安珍清姫) |
| 5番. 武士舞(信夫太郎) | 11番. 武士舞(曾我兄弟) |
| 6番. 鶏 舞 | 12番. わらび折姫之舞 |

・沿革・由来が似通っている。

・両地域に武田姓がある。



阿仁の郷土料理を堪能



「あにぎり 2個」
阿仁清流米で作ったおにぎり



馬かやき（ナンコかやき）



菊の花のクルミあえ

阿仁のかっしゅの自慢料理

菊の花の保存食がなければ、やまぶどう漬けなど、阿仁のかっしゅの自慢料理を提供する。



詳細

参加者 阿仁地域住民 50名

出演者 根子番楽と仙道番楽の方々 20名

スタッフ 活力人20名、県関係者10名、阿仁の方々20名 計50名

昼 食 湯口内の斎藤イヨさんたちに120名分の昼食をお願いする。

予算は参加者とスタッフ合わせて100名分の10万円で賄うこと。

その他の経費

番楽出演料 160,000円 両番楽とも80,000円づつ

旅 費 140,000円 仙道番楽の方々の旅費

問題点

番楽の方々の日程が合うか心配である。

AIUの留学生の参加や県関係者その他まだ多くなる可能性があり、昼食について対応できるか心配である。

